

青申会夏期研修会



7月30日、JA相馬村農業青色申告会の夏期研修会が開催され、36名が参加しました。

前半は、弘前市出前講座として農政課の今さんとりんご課の藤岡さんが「補助事業を活用して弘前の農業を元気に」という講演を行いました。今年の豪雪被害に対する県・市の制度や取り組みへの理解を深め、雪害復旧支援事業を活用してほしいと話されました。

後半は、税理士の薬師山正人先生を講師に迎え、「令和7年度税制改正ポイント」という講演が行いました。給与と所得者の所得税が掛からないラインが年収160万円までに引き上げられたことや大学生年代の子どもに関する「特定親族特別控除」の設立など、申告の際に影響があることを、具体例を交えて分かりやすく説明してくれました。



講演に耳を傾ける青申会員

フイドBOX

生鮮品回収



7月31日、直売所倉庫前において、フイドBOXの回収が行われました。この事業は、家庭で使われていない食品を持ち寄り、地域の福祉団体や施設、食事を必要とする方々に届ける活動です。

当JA施設にも令和5年2月から直売所に設置しています。通常は賞味期限が1ヶ月以上残っている食品で、食品表示や賞味期限が記載された未開封のものが対象ですが、今回は普段募集しない野菜や生鮮品も受け付けたため、夏野菜や果物の提供もありました。ぜひ、ご家庭で使われていない商品などありましたら、お気軽にお持ちいただけますようお願い致します。



ご協力をお願いします～

農業用使用済みプラスチックス収集



8月6日と7日に、JA相馬村湯口支所・相馬支所の2カ所で、野焼きやほ場への野積みを防ぐために、不要になった反射シートや農業用ポリ、枝受支柱、農薬の空容器などの回収を行いました。

回収時の注意点として、前回の収集から最終処分業者との契約が組合員個人に必要となり、初めて契約を結ぶ際には収入印紙200円を個人で負担していただくことになりました。組合員の皆さんにはこの機会を活用していただき、不法投棄を無くしたいものです。



環境に配慮して回収を勧めます

リンゴ詰め作業員説明会



8月18日、JA相馬村本所りんご冷蔵庫にて、りんご選果荷作り作業員の説明会が開催され、53名が参加しました。

大場組合長は、「地元の皆さんの力が必要です。豪雪による被害は大きかったです。着果量はあります。選果作業は暑い中で行われるため、各自体調に気を付けて仕事をしてほしい。」と挨拶しました。

説明会が終了すると、会場では「今年もよろしくね。」などと参加者同士が和気あいあいとした温かい雰囲気になっていました。



作業員に協力を呼び掛ける大場組合長



着色基準について確認する生産者

8月22日、今年最後の第4回巡回講座が管内の12ヶ所で開催され、91名の生産者が参加しました。農業振興課からは果実の肥大状況や今後の防除についての説明がありました。また、中南農林水産事務所からは「りんごの高温対策」についての情報が提供されました。今回の講座では、販売課の職員が同行し、「サンつがる」と「きおう」のサンプルを用いて、収穫時期と入庫区分について参加者に説明しました。昨年同様、「葉とらずサンつがる」は「サンつがる」で入庫し、上実はコンテナ、クズ実はいフココンテナでお願いします。「きおう」についてもクズ実は上実として入庫です。これらの入庫時の注意の再確認が行われました。

巡回講座開催



相馬こども園からの招待



8月22日、相馬こども園より女性部長田澤真由美さんと青年部長三浦剛さんなど春に野菜苗定植と畑の耕起と草刈などのお手伝いをしてもらったお礼に夏野菜カレーとデザートをごちそうしてくれました。「おいしいね」と話すと園児たちは嬉しそうに笑顔を見せ「僕、じゃがいも洗ったよ」「私は人参」と元気に教えてくれました。園長先生は、給食のカレーに入っているズッキーニとデザートのスイカは収穫したものです。いつも美味しい野菜をありがとうございます。感謝の言葉を頂きました。



みんなで食べると美味しいね

お山参詣について学ぶ



9月1・2日、相馬中学校の全校生徒38名は、五穀豊穡や家内安全を祈願する『お山参詣』について講義を受けました。高齢化に伴い参加者が減少し、存続が危ぶまれたことから相馬有志会が、小中学校のPTAや地域おこし協力隊と共に発起人となり、出前講座を実施することで興味を持つてもらい、ぜひ参加してほしいという願いが込められています。発起人の一人であり、相馬中学校PTA会長の宮川善弘さんは、「この講座を通じてお山参詣の歴史を学び、中学生の参加者を増やしたい」と語りました。

1日目には、嶋口昭男さんを講



伝統を守ると これからを担う人

師に迎え、お山参詣の歴史について多目的ホールで説明が行われました。「この御幣（ごへい）は何の木からできていると思いますか？」という質問には、ヒノキやブナ、杉など様々な意見が出ましたが、青森で有名な木というヒントに「ヒバ」とすぐに正解が出ました。

カンナガラ御幣の匂いについて生徒の中から「落ち着く匂い」や「線香の匂い」など多様な意見が飛び交いました。

2日目は、三上敏彦さんを講師に迎え、「カンナガラ御幣」に使用するガラ（ヒバの木材片）を実際に削る実演が行われました。

この御幣を作るのは三上さんを含めてごくわずかの大人さんだけで、みんなで熟練の技を見学した後、3年生から順にカンナでヒバの木を削ってみました。思ったより上手くできた生徒や、もう少しで切れそうな生徒もいました。本番は9月20・22日です。

